木根尚登プロデュース　荻野まどか　ニューシングル

荻野まどか
消印

C/W 檸檬

2025年
10月10日発売
FNFY-63　1650円(税込)
先行配信 9月9日開始

荻野まどかプロフィール(Madoka Ogino)

歌手・着物モデル

京都府城陽市出身
奈良教育大学 身体表現コース美術教育専修卒業
大阪今宮戎ミス福娘
京都ミスきもの

留学時の経験から「日本をもっと知ってもらいたい」と思い、帰国後、京都ミスきものに応募、グランプリに選ばれる。任期終了後も活動を続け、ラグビーW杯開会式(東京スタジアム)セレモニー着物モデル、パリ・モロッコにて西陣織モデル、カザフスタンでは大阪万博の誘致JAPANパレードに参加。
主演舞台も複数経験あり。
2018年夏、自身作詞の「振り向いて京都(有線8位)」で今野 敏主宰78レーベルより歌手デビュー。

More Information

荻野まどか
オフィシャルサイト

小説家今野敏、音楽家木根尚登の異色タッグによる荻野まどか新曲！

今野 敏

木根尚登

警察小説で知られるベストセラー作家、今野敏はかつて東芝EMI（現ユニバーサルミュージック）に勤めていた。上智大学在学中に新人賞を獲ったものの出版社から「うちの新人賞受賞者で作家で食えてる奴はいないから就職したほうがいい」と言われ、生来の音楽好きだったこともあり、3年だけのつもりでレコード会社に入社した。そこで出会ったのがTM NETWORK（以下TM）結成前の木根尚登である。
後にTMのボーカリストとなる宇都宮隆とともに木根が在籍したSPEEDWAYはいくつかのレコード会社から声をかけられ、東芝EMIを選ぶ。しかしそのタイミングで上司が退社してしまったため、入社間もない今野は突然ディレクターを任された。

「録音の仕方も何もわからないのにひとりになっちゃって、でもアルバムを2枚作ってそれで仕事を覚えましたね」（今野）
「同年代の人だから一緒に何かできそうで嬉しかったですね。合宿レコーディングなんて部活みたいだったし」（木根）
「それまではジャズが好きでロックはあまり聞いてこなかったけどSPEEDWAYをきっかけに興味を持ちましたね。特に小室（哲哉）くんが参加した2枚目のアルバムはものすごくきっちりしたアンサンブルでアレンジもしっかりしてて、こんなうまいバンドが売れないはずはないと。でもあんまりお客さんいなくて(笑)」（今野）
「確かに小室が入って変わったんですよ。それまで音作りは僕ひとりでやってたんで、どっちかっていうとフォークロックなバンドだったんですけど、当時TOTOとかが流行ってたので影響されて本当にアレンジもしっかりやったんで、これは2枚目で行けるかもって。でもちょっと行かなかった(笑)」（木根）
やがてSPEEDWAYは東芝EMIからフェイドアウトし、今野は81年2月にリリースされた寺尾聡「ルビーの指環」の大ヒットに宣伝担当として翻弄され、当初の予定通り3年半で退社する。

「やめて音楽業界とまったく違う生活を始めたんで、TMが売れたときは“よかった！”と本当に切実に思ったんですよ。東芝にいる頃から”あれは売れる！“と思ってたし、部長だった新田（和長）さんにも”あれは売れるから引き留めたほうがいいよ“って言った記憶があるんです。だからその3人が売れてくれたのは純粋に嬉しかった」（今野）
木根も作家として有名になっていく今野の活躍を遠くから喜びつつ、自らの音楽に邁進していた。そして2012年、今野は私財を投じて個人のレーベルを立ち上げる。
「東芝にいる頃は“売れるものを作れ”。メジャーなんだからそれは当然ですよね。でも売れなくてもいいから音楽をやりたがってる人の背中を押そうっていうコンセプトで始めたんです。その通りなかなか赤字を脱却できないんですけどね(笑)。でも道楽ですから。道楽は本気でやるんですよ」（今野）

レーベル名は『78LABEL』（ナナハチレーベル）。
「僕の小説家デビューが78年なんですよ。あと78年生まれの銀座のママさんがいて、非常に歌が上手い人で歌手になりたがってた。その人がうちの第一号シンガー。彼女のお店の名前が78」（今野）
レーベルの方向性は特になく、「楽しければいい」という健全なポリシーを持つ。着かず離れずだった今野と木根の道がまた交差したのは今年の初め。TMの春ツアーのために制作されたパンフレットでの対談だった。
「一人ひとり意外な人と対談をするという企画だったんですよ。そのときにスタッフが“今野さんはどう？”って。それで何十年ぶりかでちゃんと会ったんですけど、もう話が止まらない」（木根）
「思えばすごい短い期間しか仕事をしてないのに、鮮明に覚えてましたね。夢しかない時代ですから。そのときに“レーベルやってるんですよ。今度なんかやりましょう”“是非是非”ってなって」（今野）

荻野まどか
＆木根尚登

「で、今回のプロジェクトの話が来たんですけど、テーマが“フォーク”だったから、それならできるかなって」（木根）
京都で活動し、ミス着物のタイトルも持つ荻野まどかは78LABELで既にシングルを2枚リリースしている。
「新曲をそろそろやりたいなって話をしてたところなんですよ。彼女とはうちの女房の紹介で出会ったんですけど、第一印象はぶっきらぼうな声(笑)、これはギャップが面白いなと」（今野）

なにかに導かれるような経緯でリリースされる「消印」は、作詞・朝水彼方、作曲・木根尚登。
「もともとフォークは大好きだけど、でもどうしても癖が出ちゃって、洋楽っぽくなっちゃう、TMみたいになっちゃう。だから抑えて抑えて。ちょっと苦労したんですけど歌詞が乗った時点で“あ、よかった”と思いましたね。詞に救われた。今こういう曲がないからタイムスリップした感じですよね」（木根）
「70年代の中島みゆきさんの歌い方に、ストレートさがちょっと似てますよね。最近年をとったせいかテレビを見ていても聴こえてくるヒップホップやラップが全然入って来なかったんですよ。でも今若い人も80年代ポップスを聴いてるって話もあるし、ひょっとしたらこういうものを求めてる人はいるんじゃないかってずっと思ってたんですね。そしたら木根さんがこの曲を書いてくれたんで、これは今やるべきだなって思ったんですね」（今野）
和のテイストでゆるやかに広がる旋律のところどころで、ふわっとつぼみが開くような瞬間がある「消印」。
「こんなマイナーレーベルに木根さんが関わってくれて本当に嬉しかった。過去に出会った人がこんな風につながるなんて。出会いなんて何十年もたたないとその意味がわからないですよ」（今野）

荻野まどか｜消印
1. 消印　2. 檸檬
3.消印（オリジナル・カラオケ）
4.檸檬（オリジナル・カラオケ）

すべての歌は出会いから始まる。そのことを体現しているかのようなこの曲が、たくさんの“意味”に彩られるのはこれからだ。

佐々木美夏